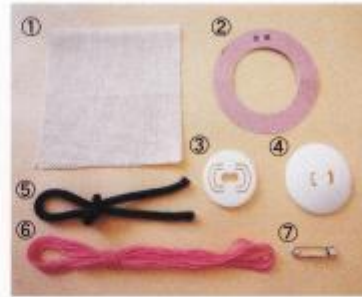


2016年

2016年6月9日 衣の会の会員主催による新一年生を対象としたワークショップが終了致しました。

今回は「こぎんざし」がテーマでした。

↓に作り方を掲載致します。マウスを当ててクリックして、拡大してご覧ください。



【材料】

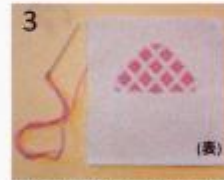
- ①布
- ②型紙
- ③パーツB
- ④パーツA
- ⑤ゴム
- ⑥刺し子糸
- ⑦ブローチピン



1 布の対角線の交わるころ、布の中心にチャコペンで印をつける。



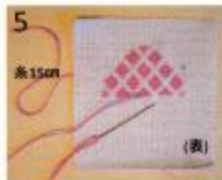
2 布の表から、糸を通した針を中心の目の右に刺す。糸を20cm残し図案を見ながら右から左に進んで刺します。



3 1列目の左側が刺せたら残しておいた目の右に針を付け右側1列を刺す。針を元の糸に変え直し上半分を刺す。



4 糸端は2~3目絡ませ、始末する。



5 下半分を刺す時は端から糸を15cm残し、図案を見ながら刺す。



6 下半分が刺しおわる。



7 糸端の始末をする。



8



9 模様刺し終わる。



10 模様の中心が型紙の中心と合うように置く。



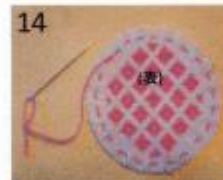
11 チャコペンで型紙の外側に合わせ線をひく。



12 チャコペンでひいた線にそってハサミで切る。



13 端から4~5mm内側を玉止めが裏側に来るように針を刺し、一周なみ縫いをする。



14 針を表に出す。



15 布の裏側に模様の中心とパーツAの中心が合うようにパーツAを裏向きに置く。糸を締め、包み、玉止めをする。



16 パーツBをパーツAの突起に合わせ奥に押し込みセットする。



17 ブローチピン



18 髪留め

衣の会♥ワークショップ



《こぎん》

こぎん刺しは江戸時代に青森県の津軽地方で生まれた、刺し子の技法のひとつです。当時、木綿の衣類が許されなかった農民の間で、麻の野良着の保温と補強のために始まったと言われています。

布の織り目を数えながらみ縫いのように進めていきます。模様には『花こ』『うろこ』『猫の足』『べこ刺』など農村の生活や自然の中にあるものが使われています。

ヨーロッパにも似た模様の刺繍があり、生活に密着した人々の知恵だったようです。

世界のファッション界で活躍してきた三宅一生氏も 初期作品に刺し子のモチーフを活かしたものがあり、現在、世界から日本の伝統工芸の良さが注目されています。

ワークショップでは刺しやすいように、こぎん糸ではなく刺し子糸を使用しましたが、こぎんは保温の役割があるため、刺し子糸より太いです。

また、『江戸紫』『緑青色』『萌木』『琉璃紺』『空色』『赤紫』『紅色』『ひまわり』『ピンク』の9色の糸を用意しました。

